

蕨の教会

日本聖公会
川越キリスト教会

〒350-0056 川越市松江町2-4-13 (牧師) 司祭 パウロ鈴木伸明 ☎049-222-1429 FAX049-222-2056
http://www.kawagoe-seikokai.org/ (編集) 文書部 ルカ 野澤 達也

2021年度宣教テーマ 「わたしの家はすべての民の祈りの家(聖書) —煉瓦の聖堂100周年—」

近隣の方々に見守られている聖堂

赤煉瓦の聖堂は市内の皆様にとつても見慣れている光景ですが、長く同じ町内に在住されていた田口吉兵衛さん(十二代目1997年没)が機関紙「川越の文化財」:川越市文化財保護協会刊:に掲載された文章と写真を関係者の許可をいただき、掲載します。なお、タイトル「平成備忘録」は1995年〜1998年10回連載されました。

平成備忘録(七) 川越の基督教

(1997年3月発行)
文化財保護協会会員 田口吉兵衛

一、新約聖書馬太傳

わが家には、江戸時代と明治初期の書籍がたくさん残されている。新約聖書は明治初期に使用した志義学校の教科書などといっしょに保存されていた。志義学校が開校したのは明治七年(1874)のことである。明治五年に明治政府によって学制が公布され、川越にも明治六年に小学校四校が開校した。志義学校はその

翌年の明治七年に開校し、わが家の十代目の田口吉兵衛(仙吉)がこの年に入学している。

新約聖書馬太傳は、明治十年横浜で上梓されている。もちろん新約聖書は学校教育とは無関係であるが、その当時読まれたものである。新約聖書馬太傳は木版印刷によるもので、和本と同じ形式である。字体は変体仮名が使われている。

(中略) 価格、発行年、会社、マタイ伝の第1章の冒頭と第27章の冒頭を紹介している

二、基督教

わが国において基督教の禁制が解かれたのは明治六年(1873)二月二四日のことである。明治政府によって徳川三百年の長きにわたる基督教の禁制は解除され太政官の名をもって布告された。わが家では、江戸時代より代々神道と仏教の教えを大切に、深い信仰心をもっていった。家中には多くの神仏が祀っていた。そのわが家から明治十年に上梓された新約聖書馬太傳が見つかったのは、どんな理由によるものだったのだろうか。明治初期に外国の新しい思想と文化がとうとうと日本へ

入ってきた時代に基督教の教えに対して大きな興味を持って禁制の解かれた基督教の教えに対して、大きな関心を持って読んだものと思われる。このたび、新約聖書がわが家において見つかったことを機会に川越における基督教について調べてみた。(中略) 市内の6教会の設立年と所在地の紹介

三、川越基督教(日本聖公会)

わが家の近くに川越基督教(日本聖公会)がある。松江町二丁目(旧上松江町)の中ほど、仲町(旧志義町)通りからの丁字路が東方へ突き当たったところである。通称「蕨の教会」と呼ばれ、人々に親しまれている。礼拝のため教会を訪れる熱心な信者の姿を多く見ることができ、教会の入り口には礼拝・集会の案内板が建てられている。教会の建物は、大正十年(1921)四月に建設されたものである。赤煉瓦造りの鐘楼、礼拝堂は明治・大正時代を象徴する教会建築の代表的な建築物で文化財としての価値も高い。教会の設計者はウイルソン技師で、工事施工者は、東京の清水組(現清水建設)であった。当時の川越ではまだ煉瓦造りの建物としては大正七年に建設された第八十五銀行(現あさひ銀行川越支

店)の建物くらいであった。教会入口の赤煉瓦の鐘楼の上には大きな十字架がかかげられている。初夏の頃ともなれば、鐘楼の外壁に蕨の葉が茂り、白い十字架の夕陽に輝くさまはまことに絵になる風景であり、興味深いものがある。この風景に魅せられて、スケッチをする画家たちの姿を日頃多く目にする。川越基督教会の歴史は松平惟太郎氏著の「蕨の教会……川越基督教会百年史」によって知ることができる。

(中略)この間には前述の書からの引用がある。
 現教会完成 大正十年に上松江町(現松江町二丁目)に完成。現教会の場所は大正の初めは、富沢石材店の



聖堂建築前にこの場所で山車が飾られた 1915年

和十八年十一月十二日(あと松原司祭は昭和十九年十月に招集を受け、中国大陸の戦線に参加のち戦病死された。まことに惜しまれる。昭和二十年

の石置場であった。浦島の山車が再建され、大正四年大正天皇即位のご大典を祝す祭礼に初めて曳き出されたとき、このところに山車が飾られた。その時の写真に四歳のわたしが写っている。

昭和十五年(1940)一月、松原剛司祭が着任された。同年暮には長く宣教師として奉仕されたポイド女史が国際間の情勢悪化のために日本を去った。わたしは当時旧松江町の組長をつとめていた。また太平洋戦争開戦後は防空関係の班長を担ったため教会へもときどき訪れていた。太平洋戦争中、基督教は厳しい制約をうけ、松原司祭も苦難の道を歩まれた。わたしの招集された(昭和

五月には川越教会の礼拝堂は陸軍通信部隊に徴用された。通信隊教室として使用され、鐘楼も警備隊の見張所となった。礼拝堂が徴用されてからも、松原夫人等によって、礼拝は続けられたとのことだった。昭和二十年八月十五日戦争終結。川越基督教会は徴用が解除され礼拝堂は教会の手に戻った。

戦後昭和二二年には川越基督教会内に初雁幼稚園の初雁幼稚園第一分

園が開園した。昭和二十四年にはペターソン館が完成し幼稚園園舎としても使用された。わが家では初雁第一分園の幼稚園にこどもたちが次々に入園させてもらった。昭和二十五年に着任された松平司祭ご夫妻、とくに夫人にはこどもたちがたいへんお世話になった。

(以下メソジスト教会 現日本基督教団川越教会に関する記述がありますが、割愛します)



むかでや
 リニューアルした百足屋さん

筆者の田口吉兵衛さんの田口家は江戸時代(1639年)創業の糸、組紐、鯉節などを扱う商家でした。代々当主は吉兵衛を名乗り、12代目の吉兵衛さんは川越の文化財にも詳しく、活躍されていました。このほど伝統の百足屋があらたに再生されました。オリジナルの民芸品の販売や、店内では風格のあるお座敷でコーヒーや軽食が、事前の予約でランチ会席もいただけます。また店頭の赤いポストは現在も使用され、郵便物を投函できます。この店蔵は川越大火の後1896(明治29)年に建てられています。